

書 I [書 I 306]

評価規準例

教科書ページ	単元名	書への関心・意欲・態度	書表現の構想と工夫	創造的な書表現の技能	鑑賞の能力
1	文字の世界を旅しよう [書へのびざなう] 書写から書道へ	文字について関心を持ち、世界の文字と漢字、仮名との相違点、共通点を理解しようとしている。 国語科書写と芸術科書道の関係、高等学校での書道の学習の意義に関心を持ち、意欲的に取り組もうとしている。 中学書写での漢字と仮名の調和の学習を振り返り、意欲的に取り組もうとしている。	* 中学書写での漢字と仮名の調和の学習を振り返り、表現を工夫している。	* 中学書写で学習した漢字と仮名の調和を図る技能を身に付け表している。	文字について関心を持ち、世界の文字と漢字、仮名との相違点、共通点を理解している。 国語科書写と芸術科書道の関係、高等学校での書道の学習の意義を理解している。
2～3	[書へのびざなう] 用具・用材	用具・用材に関する基本的な知識や扱い方に関心を持ち、理解しようとしている。 基本的な姿勢・執筆法を身につけようとしている。	用具・用材の使い方を工夫している。 基本的な姿勢・執筆法を身に付け表そうと工夫している。	用具・用材を適切に用いる方法を身に付け表している。 基本的な姿勢・執筆法を身に付け表している。	* *
4～5	[書へのびざなう] 姿勢・執筆法	漢字の書体の変遷と仮名の誕生に関心を持ち、意欲的に取り組もうとしている。	* 書表現を工夫している。	* 書表現を工夫している。	* 漢字の書体の変遷と仮名の誕生について理解している。
8～9	Introduction 書体の変遷	書の種類や鑑賞形式に関心を持ち、意欲的に取り組もうとしている。	* 書表現を工夫している。	* 書表現を工夫している。	書の種類や鑑賞形式を理解している。
10～11	Introduction 書の古典	古典に基づく学習の意義と臨書に関心を持つこと。	* 書表現を工夫している。	* 書表現を工夫している。	古典に基づく学習の意義や、臨書について理解している。 拓本の採り方を理解している。
12～13	1 漢字の書の世界	拓本の採り方について関心を持つこと。	* 書表現を工夫している。	* 書表現を工夫している。	拓本の採り方を理解している。
14～15	① 漢字の書の学習をはじめよう	さまざまな楷書の古典の美とその技法に関心を持ち、表現技法を高めようとしている。 筆者の感興や意図と字形や線質との関わりに関心を持ち、意欲的、主体的に漢字の美を味わおうとしている。 自らの感性や意図に基づいて、字形の構成や全体の構成を工夫しようとしている。 表現活動を通して、意図的、主体的に表現の構想から完成に至るまでの充実感や喜びを味わおうとしている。	* 楷書の美とその技法を学び、普遍性のある表現を工夫している。 楷書の構築的な構造や変化と統一などを理解し、字形の構成や全体の構成を工夫している。 楷書の美に対する感性を働かせて、自らの意図に基づいて表現を構想し、工夫している。	* 楷書の基本的な点画や線質の表し方と用筆・連筆の関係を理解し、創造的な表現を身に付け表している。 用具・用材、線質、字形、全体の構成などの表現の技能を身に付け表している。	さまざまな楷書の古典の美とその技法について理解している。
16～31	② 楷書の古典に学ぼう	唐時代の時代背景や、太宗と初唐の三大家について、理解を深めようとしている。	* 書表現を工夫している。	* 書表現を工夫している。	唐時代の時代背景や、太宗と初唐の三大家について理解している。
24～25	「コラム 歴史の扉」 世界に開かれた帝国・唐	唐時代の時代背景や、太宗と初唐の三大家について、理解を深めようとしている。	* 書表現を工夫している。	* 書表現を工夫している。	唐時代の時代背景や、太宗と初唐の三大家について理解している。
30～31	「コラム 祈りの書」 写経・造像記	写経や造像記の内容を美しくし、理解を深めようとしている。	* 書表現を工夫している。	* 書表現を工夫している。	写経や造像記の内容を美しくし、理解している。
32～33	作品鑑賞の部屋 みる・くらする 近現代の漢字の書①	近現代の漢字の書作品に関心を持ち、意欲的に鑑賞しようとしている。	* 書表現を工夫している。	* 書表現を工夫している。	近現代の漢字の書作品を鑑賞し、表現の意図やそれぞれの美しさを創造的に味わっている。

教科書 ページ	単元名	書への関心・意欲・態度	書表現の構想と工夫	創造的な書表現の技能	鑑賞の能力
34 ～ 57	③行書の古典に学ぼう	さまざまな行書の古典の美とその技法に関心をもち、表現技法を高めようとしている。 筆者の感興や意図と字形や線質との関わりに関心をもち、意欲的、主体的に漢字の美を味わおうとしている。 自らの感性や意図に基づいて、字形の構成や全体の構成を工夫しようとしている。 表現活動を通して、意図的、主体的に表現の構想から完成に至るまでの充実感や喜びを味わおうとしている。	行書の美とその技法を学び、普遍性のある表現を工夫している。 行書の変化と統一などを理解し、字形の構成や全体の構成を工夫している。 行書の美に対する感性を働かせて、自らの意図に基づいて表現を構想し、工夫している。	行書の基本的な点画や線質の表し方と用筆・運筆の関係を理解し、創造的な表現を身に付け表している。 用具・用材、線質、字形、全体の構成などの表現の技能を身に付け表している。	さまざまな行書の古典の美とその技法について理解している。
38 ～ 39	「コラム 人と書」書聖王羲之について。	王羲之の書と人について、理解を深めようとしている。	*	*	王羲之の書と人について理解している。
52 ～ 53	「コラム 歴史の扉」大陸文化の摂取と天平の美術	奈良～平安時代における日本と中国の文化交流の歴史に関心をもち、理解を深めようとしている。	*	*	奈良～平安時代における日本と中国の文化交流の歴史について理解している。
54 ～ 55	「コラム 士大夫の書」蘇軾・黄庭堅・米芾 作品鑑賞の部屋 みる・くらべる 近現代の漢字の書②	蘇軾・黄庭堅・米芾の書と人に関心をもち、意欲的に鑑賞しようとしている。	*	*	蘇軾・黄庭堅・米芾の書と人について理解している。
60 ～ 61	〈表現の窓〉漢字の書の商品制作	近現代の漢字の書作品に関心をもち、意欲的に鑑賞しようとしている。	*	*	近現代の漢字の書作品を鑑賞し、表現の意図やそれぞれの美しさを創造的に味わっている。 鑑賞と表現は相互に関連していることを理解し、漢字の書のみならず美しさを感じ取っている。
62 ～ 63	④篆書に親しもう	身の回りの篆書に興味をもち、意欲的に取り組んでいる。	自己の表現の狙いを達成するために、古典のもつ伝統的な美を感じ、表現を構想し工夫している。	創造的な書表現をするために、用具・用材、線質、字形、全体の構成などの表現の技能を身に付け表している。	篆書が生活の中で果たしている役割を知り、その効用を理解している。
64 ～ 67	〈表現の窓〉篆刻・印を刻る	落款の意味とその役割について関心を持っている。 篆刻に関心をもち、意欲的に取り組んでいる。	篆刻の技法を学び、自らの意図に基づいて表現を構想し工夫している。	篆刻の技法を理解し、姓名印を刻す技能を身に付け表している。	落款の意味とその役割について理解している。 篆刻の意義と技法について理解している。
68 ～ 71	⑤隷書に親しもう	身の回りの隷書に興味をもち、意欲的に取り組んでいる。	隷書の古典のもつ伝統的な美を感じ、表現を構想し工夫している。	*	隷書が生活の中で果たしている役割を知り、その効用を理解している。
72 ～ 73	⑥草書に親しもう	身の回りの草書に興味をもち、意欲的に取り組んでいる。	草書の古典のもつ伝統的な美を感じ、表現を構想し工夫している。	*	草書が生活の中で果たしている役割を知り、その効用を理解している。
74 ～ 75	2 仮名の書の世界 Introduction 仮名の成立	仮名の成立に関心をもち、意欲的に取り組んでいる。	*	*	仮名の成立について理解している。
76 ～ 77	仮名の成立	仮名の用具・用材に関する基本的な知識や扱い方に関心をもち、理解しようとしている。 仮名の表現技法の基礎、基本を身に付け、書写能力の向上に努めている。	用具・用材によって線質や表現が変わることを理解し、表現を工夫している。	用具・用材を適切に用いる方法を身に付け表している。 表現技法を高めるために、姿勢、執筆法などの基本的事項を身に付け表している。	*
78 ～ 79	①仮名の書の学習をはじめよう	平安時代の古筆の美とその技法に関心をもち、表現技法を高めようとしている。	仮名の書とその技法を学び、普遍性のある表現を工夫している。	仮名の基本的な線質と用筆・運筆との関係を理解し、創造的な表現を身に付け表している。	平安時代のさまざまな古筆の美とその技法について理解している。
80 ～ 99	②仮名の書の古典に学ぼう	平安時代の古筆の美とその技法に関心をもち、表現技法を高めようとしている。	仮名の書とその技法を学び、普遍性のある表現を工夫している。	仮名の基本的な線質と用筆・運筆との関係を理解し、創造的な表現を身に付け表している。	平安時代のさまざまな古筆の美とその技法について理解している。

120 ～ 124	118 ～ 119	116 ～ 117	114 ～ 115	112 ～ 113	110 ～ 111	108 ～ 109	106 ～ 107	104 ～ 105	102 ～ 103	100 ～ 101	88 ～ 89	86 ～ 87	84 ～ 85
生活の中の書①②③ はがき・手紙の書式 金封の表書き 刻字の表札	「コラム 人と書」 高村光太郎・宮沢賢治	作品鑑賞の部屋 みる・くらべる 近現代の漢字仮名交じりの書	③自分らしい表現を求めて 〔紙面構成の工夫〕	②自分らしい表現を求めて 〔用具・用材の工夫〕	〈表現の窓〉 古典に表現を学ぶ	①漢字仮名交じりの書の学 習をはじめよう	Introduction 漢字仮名交じりの書の変遷	3漢字仮名交じりの書の世界	〈表現の窓〉 仮名の書の作品制作	作品鑑賞の部屋 みる・くらべる 近現代の仮名の書	「コラム 文学と書」 平安時代の文学と仮名	変体仮名	いろは歌
くらしの中に書を生かそうとしたり、くらしに生きる書に関心を持っている。	高村光太郎と宮沢賢治の書と人物について関心を持ち、その関係を理解しようとしている。	近現代の漢字仮名交じりの書作品に関心を持ち、意欲的に鑑賞しようとしている。	紙面構成を工夫することに関心を持ち、意欲的に取り組んでいる。	用具・用材と表現との関係に関心をもち、意欲的に表現に取り組もうとしている。	古典や名筆のよさや美しさに関心を持ち、意欲的に取り組んでいる。	漢字仮名交じりの書の表現に関心を持ち、意欲的に取り組んでいる。	漢字仮名交じりの書の変遷に関心を持ち、意欲的に取り組んでいる。	仮名の書の作品制作に関心を持ち、意欲的に取り組んでいる。	仮名の書の作品制作に関心を持ち、意欲的に取り組んでいる。	平安時代の貴族文化と文学、仮名の関係について関心を持ち、意欲的に学ぼうとしている。	平安時代の貴族文化と文学、仮名の関係について関心を持ち、意欲的に学ぼうとしている。	変体仮名に関心を持ち、表現技法の基礎、基本を身に付け、書写能力の向上に努めている。	表現技法の基礎、基本を身に付け、書写能力の向上に努めている。
書道の学習で身に付けたことを生かして、くらしの中に書を生かす工夫をしている。	*	*	効果的に表現するため、文字の大きさや配置、行の長さや行間を工夫している。	用具・用材によって線質や表現が変わることを理解し、表現を工夫している。	古典や名筆の美しさを感じ取り、自分の表現の狙いを達成するために、自らの表現意欲を高め、表現を工夫している。	漢字と仮名の調和した線質の表し方やその美しさを理解し、表現を工夫している。	*	自己の表現の狙いを達成するために、古典のもつ伝統的な美を感じ、表現を構想し工夫している。	*	*	*	日本の伝統的な書的美を感じ、表現を工夫している。	単体、連続や全体の構成など、日本の伝統的な書的美を感じ、表現を工夫している。
書道の学習で身に付けたことを生かし、くらしの中に書を生かすことができる。	*	*	文字や文字群と余白との関係を理解し、全体の構成を考えた表現の技能を身に付けている。	用具・用材の特性を生かした表現効果を理解し、表現に応じた用具・用材を選択している。	古典や名筆のよさや美しさを生かして表現する技能を身に付けている。	漢字と仮名の線質の調和を図る技能を身に付けている。	*	創造的な書表現をするために、用具・用材、線質、字形、全体の構成などの表現の技能を身に付けている。	*	*	*	仮名の基本的な線質と用筆・連筆との関係を理解し、創造的な表現を身に付けている。	連筆の律動性や筆脈の把握を通して、仮名の美的特質を理解し、その技法を身に付けている。
*	高村光太郎と宮沢賢治の書と人物について理解し、その書のよさを創造的に味わっている。	近現代の漢字仮名交じりの書作品を鑑賞し、表現の意図やそれぞれの美しさを創造的に味わっている。	紙面全体の構成を工夫することで、表現効果が高まることを理解している。	用具・用材の特性を生かすことで、表現効果が高まることを理解している。	古典や名筆のよさや美しさを生かして表現することを理解している。	漢字と仮名の調和した表現について理解している。	漢字仮名交じりの書の変遷を理解している。	鑑賞と表現は相互に関連していることを理解し、仮名の書のよさや美しさを感じ取っている。	近現代の仮名の書作品を鑑賞し、表現の意図やそれぞれの美しさを創造的に味わっている。	平安時代の貴族文化と文学、仮名の関係について理解している。	平安時代の貴族文化と文学、仮名の関係について理解している。	変体仮名の字源やくずし方、作品制作上の効用などを理解している。	仮名の基本的な線質と用筆・連筆との関係を理解している。